

令和5年度 第5回豊南地域会議 会議録

■日 時 令和5年9月21日(木) 午後6時30分～8時

■会 場 豊南交流館 1階 大会議室

■出席者 <委 員> 天野 昭一郎 伊藤 信行 岡田 剛 川上 正弘
貴堂 悦弘 小玉 知子 小戸 昌則 小林 俊一
杉原 弘康 鈴木 久雄 中島 浩 山下 安則
良知 晶子
※欠席者 内田 昌利 大富 晃 柴田 省吾
柘植 紀宏 福士 範行
<豊田市> 安田 明弘(豊田市副市長)
奥村 洋(地域振興部 市民安全室長)
<事務局> 岡本 裕之(地域支援課 課長)
松下 誠(地域支援課 副課長)
塚田 征弘(地域支援課 担当長)
杉浦 由里江(地域支援課 主事)

■次 第

開 会

- 1 豊田市民の誓い唱和
- 2 会長あいさつ
- 3 安田副市長あいさつ
- 4 諮問書授受
- 5 諮問内容説明(企画課)
- 6 質疑応答及び副市長との意見交換
- 7 その他連絡事項

閉 会

■議 事(要約)

- ・諮問内容説明
市企画課から諮問内容の説明を行った。
- ・副市長との意見交換会
別紙のとおり
- ・事務連絡
(1) 拳母代表者会議について情報提供を行った。

(2) 地域会議委員の改選について

第 10 期の委員改選について報告した。今回で 1 期目の委員に対して、継続しない意向であれば 9 月末までに事務局へ連絡するよう依頼した。

(3) 10 月地域会議の日程について

10 月地域会議の日程を 19 日 (木) の予定から 26 日 (木) へ変更した旨連絡した。

第6回豊南地域会議 質疑応答 議事録

副市長：基本構想は比較的、柔軟に構えているもので「豊田市の目指す姿」という形で思いを載せている。政策を進めるときに、常に立ち返る大事な思い・理念というものを共有したい。難しく考えず、普段生活する中で豊南地域はこういうことを大事にしてやっていくということでも良いので意見交換をしたい。

委員：こどもたちの通学路になっている場所について、交通量が多く危ないところが多い。そのなかでも、遊歩道は500メートル歩いたら道路につきあたったり、信号で止まったする。こどもとよく散歩をするときに危ないと思う。信号等で止まらず一周できるような周回路にしたらどうか。健康づくりにもつながると思うし人が集まってきて賑わいにもつながる。

副市長：確かに信号で止まることもあるが、豊南地区は緑道が整備されているように思う。実際に緑道ができるときに地域活動をしていたが、緑道ができる前とできた後では地域が変わったと感じる。お互いの地域を行き来することができるようになった。今後もぜひ活用していただきたい。

こどもの視点については、国も大事だと言っている。次の世代に向けてまちづくりをしていく必要があるが、子どもの環境の困難も多くてその部分を克服しながらやっていくべきという考えから、本日説明した素案にも記載されている。

委員：私は多文化共生の仕事をしているので、外国人の人、特にこどもと接することが多い。特に豊田市の産業は外国人の下支えがないと成り立たないと思う。豊南地域は外国人が少ないのであまり目を向けられていないのかと思っていたが、市全体の計画などを見てもあまりにも外国人の方のことを触れられていないと感じることが多い。これから人口は減少、外国人が増えていく傾向にあると思うので、同じ豊田市民として見ているということを示していただけると嬉しい。

市長：以前は外国人の方が集住していたが、今はいろいろな国の方がいろいろな地域に住んでいて多様な社会になっている。外国人の方と一緒にまちづくりをしていくという中で、いろいろな国の方を集めた会議等もおこなっていて、まちづくりの一員として意見を聞きながら進めている。おっしゃった中長期的な計画に外国の方の視点は必要だと思う。

委員：介護に関することで高齢者とこどもの交流が必要だと思う。高齢者はこどもたちと接することで良い刺激になるし、こどもたちにとってもおじいちゃんやおばあちゃんと話すことで昔の経験や知らないことを知れる、両方にとっていい刺激になると思う。また介護の人手不足も問題になっていると思う。

副市長：ぜひそうありたいとおもう。親戚にも認知症の人がいるが、こどもたちとやり取りをしていると全く認知症を感じない。良い刺激になっていると思う。

行政はこどもならこども、高齢者なら高齢者と分けがちだが、地域に入ってみると、外国の方、高齢者、こども等様々な方がいるのが当たり前で、それを縦割りで解決しようとするとうまくいかない。総合計画の中でもそういった視点は大事だと思う。

介護士が足りないということでインドネシアの都市バンドンと提携して進めているのは、ただ外国から人手を引っ張ってくるのではなく、日本に来る前に日本語を学んでいただくという仕組みである。日本に来た後もスムーズに働ける、資格をとれることを目的としている。日本へ来てお困りにならないように、うまく受け入れられるかたちを作っていきたい。

委員：介護の話の続きで、介護を受ける人にとってペットも刺激がある。飲食店でペットを連れていくのはだめなのはわかるが、ホームセンター等でペット可能な施設を増やしてほしい。

自分の父の介護施設にペットを連れて行ったとき、父だけでなく他の高齢者の方たちも寄ってきていきいきとしていた。マナーの悪い飼い主もいるかもしれないが、しっかり整備してペットも入っていけるところを増やしていただけると嬉しい。

副市長：さきほど話した認知症の親戚も犬と一緒に生活している。セラピー効果はとても高いと思う。受け入れる側の気持ちと基本的なしつけの問題はあるが、今やペットは家族の一員のような存在になっていると思うので良いと思う。

委員：難しいのが、みんながみんなペット好きではないということである。

避難所を運営するにあたって課題になっている。

委員：もちろんすみわけは大事だと思う。

委員：こどもの話に戻るが、中学校の部活動が縮小していく方向だが、部活動を委託するその先が市主導か学校主導か地域主導なのかがわからない。地域が手を上げなければできないという状況はどうかと思う。

このままだとしっかりやる地域とやらない地域で差がでてしまう。計画の素案にもあるつながるということなら、学校と連携しながらやってほしい。

副市長：地域で手を挙げるとするのは難しいか。

委員：知り合いのつてがないとなかなか難しい。

副市長：部活動の地域移行の発端は教員の多忙化解消である。しかし、先のことを見据えると、地域でこどもを育てるという視点はすごく大事だと思う。学校は教育の場、家庭はしつけの場、地域は地域に住むこどもの育ての場となると思う。単純に教員の多忙化解消ではなくて、発想をかえて、地域でこどもを育てるということをベースにおいて地域づくりをしていくということが大切だと思うが、地域が手を挙げづらいということならば考えどころである。

企画課：今でた話で、部活動以外についても、学校以外の場を生み出すことは必要だということ認識しており、あとはどうやって仕組みをつくるかということを考えている。部活動については、働いてる方に対して仕事終わりに来て教えてくださいというのも難しい話であり、怪我した時の保険はどうするか等の仕組み

を作っていく中で、課題を拾い上げながらどうやったら子どもたちがこれまでと同じように機会を得られるかということ、次の総合計画に向けても大切にしていこうと思っている。そういった中でできるなら地域の人達にも参加していただきたい。

委員：区長として、地域で登下校の見守りをする中で気を付けているのは子どもを触らない、容姿について何も言わないことである。昔だったら問題のなかったことが、今はできなくなっている時代で、地域で育てるとするのはとても難しいと思う。

副市長：祭りなどの文化で、こどもの成長を見守りながら育てていく等ができると思う。

委員：昨年度、豊南の地域会議で高齢者の移動支援について検討した。記載してあるように、豊田市は鉄道の駅がたくさんあるが、各々の駅へのアクセスが悪いという問題があり、免許返納をしたいができないという方がいる。

ぜひ、総合計画を立てられるときに、豊田市の産業を生かして、全国のモデルとなるような移動の取組も入れてほしい。

副市長：これからの移動のあり方をずっと検討している。基幹バス等だけでなく共助の視点も大切だと思う。

委員：移動に関することだが、リニアから開通すると名古屋から東京まで45分ほどで行けるようになる。現実問題として、豊田市から名古屋へ行こうとすると1時間、この地域から豊田市まで行くのに1時間かかる。豊南地域から名古屋へ行く間に名古屋と東京を往復できてしまう。そのくらい不便な交通網だということを理解してほしい。

副市長：豊田市から名古屋への距離を詰めたというのはずっと考えている。名鉄との調整もしており、すぐに整えるのは難しいが大事な視点である。

委員：交流館や児童館の有効活用をできているか疑問に感じている。

使う人使わない人の差が出来てしまうし、ほかの地域がどんなことをやっているか全く知らない。交流館同士のネットワークをうまく使えないかと思う。

副市長：全国的に見ても豊田市の交流館はとても良く使われている施設である。

今後、どういう時代になろうとも、地域の中心となって大切にされる施設だと思う。ほかの地域の取組は聞いていないか。

委員：ほかの交流館がどういうことをやっているのかっていうのは知らない。取組を知ることができれば、より良いイベントができるかもしれないと思う。

副市長：豊田市は地区ごとに特徴があって取組が全然違うと思う。山村部もあり、色合いが全然違った取組もしていると思うので、そういったところと交流していくのが良いのではないかと思う。自分たちの地域にないものが山村にあったり、山村にないものがこっちにあったり、補い合えるような豊かさを感じられる部分があると思う。

自治区単位やコミュニティ単位でほかの地域の取組を知りながら、交流館を活

用していただきたいと思う。情報交換できるような場があると良い。

委員：山之手小学校の遊具が増えた。土日に開放して遊ばせることができないか。自分がこどものころはよく遊んでいたが、今は責任問題があるのか簡単に使えない。こどもたちの成長にもつながると思うので検討してほしい。

副市長：セキュリティ面や校長の管理方針等で昔のように自由に使えなくなっているかもしれない。学校は大事な資源で、活用するという視点も大事だと思う。